

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 8 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102884		
法人名	社会福祉法人 可部大文字会		
事業所名	グループホーム（山まゆ）フルーツハウス		
所在地	広島県広島市安佐北区大林4丁目10-26 (電話) 082-810-5585		
自己評価作成日	平成27年6月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3470102884-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成27年8月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

フルーツハウスでは、地域交流を軸に置き在宅生活と切れ目のないサービス提供に努めています。地元川東自治会と連携を図り、地区で催される神社への初詣やとんど、地区運動会、秋祭りへと積極的に参加しています。また、近隣にある大林小学校や大林保育園、子ども会等とも積極的に交流を図り、世代間交流を行っています。もしも、病状が悪化し重篤化した場合でも、主治医と密な連絡を取りながら法人内にある特別養護老人ホーム山まゆと連携し、重度化対応を行っています。今年は「リクエスト外出」として、ご本人の身近な外出を叶える支援を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

このホームは、平成13年に法人本部内に1ユニットで開設、平成23年に現在の地に、2ユニットで増設移転された。広島市北東部に位置し、風光明媚な山河や田園地帯に囲まれ、民家や学校・保育園も近くにあり、地域住民の息遣いも感じられる環境下にある。山陽・山陰を結ぶ国道に近く、交通至便で、家族のほか地域住民も気軽に訪問しやすい立地条件を備えている。移設当初から、地域住民の理解と支援に恵まれ、地元の祭り、地域行事への参加や、子ども会との共同開催によるカレーパーティなど、積極的な地域交流が展開されている。入居者の医療依存度が高まり重篤化の際には、運営母体法人との組織的な医療連携体制が確保されている。今年度は、入居者の個別ニーズに対応する「リクエスト外出」や「園芸療法」の導入など、職員の創意工夫と行動力を結集した先進的な取り組みが注目される。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人理念を念頭に、職場の目指す姿「地域密着」をフロア会議等で共有化を図っている。また、それに伴っての実践（行事参加）を行なっている。	「山まゆ」の糸にたとえた「光り輝く最高の人生を送られることを、心から願って…」の理念を紡ぎだし、職員全員でその定着化を図っている。今年度は、テラス環境の整備として、専門資格を持つ職員を中心とした（園芸療法）の取り組み、個別対応の「リクエスト外出」を重点目標に掲げ、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年と同様、自治会の賛助会員として参画しており、些細な事も回覧板を通して情報が回るようになり、町内会の会合にも管理者が出席している。また、散歩中などで地域の方より声かけ、挨拶を多く頂くようになった。	自治会の賛助会員として、回覧板や地域行事に参加のほか、町内の会合には管理者が出席して任を果たしている。近隣の散歩に出かけた際、ゴミを拾い集めたり、近所の人に花を貰うなど、地域の一員として日常的な交流が展開されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	訪問される方にグループホームがどういう施設であるか、認知症の人がどういう人であるか理解を促すとともに、地域の子ども達へも子ども会を通し、認知症を患う方でも関係なく接することができるという事を遊びを通して感じて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、入居者の数・取組み状況・苦情等の報告を行い、進展・改善に向けた取組みを検討している。また、そこで得た地域行事の情報等に基づき、積極的に地域行事へ参加するようにしている。	運営推進会議は、法人本部にある地域密着型特別養護老人ホームと共同開催している。出席の地域役員から、行事等の地域情報を収集のほか、事業所および法人側の情報提供やイベントの広報など、地域との積極的な交流の場として活用されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議時では、担当介護保険課より参加して頂き、その場での情報交換はもとより、小さな事でも福祉センターで積極的に伝達し、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	管理者が中心となって市町と対応し、行政の担当者から具体的なケースの相談や利用状況の照会など、問題解決型の協力関係を保っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止に関わる取り決めを法人で確立しており、それに基づいて法人委員会で身体拘束廃止委員会を設立している。毎月委員会を実施し、拘束の有無・必要性を検討し、もし有れば廃止に向かって取り組んでいる。現在、拘束者はいない。</p>	<p>法人本部において身体拘束防止委員会が設置され、体系的な職員教育が徹底している。現在、ホーム玄関に内側から出る際は、施錠があるものの、身体拘束が行われている利用者はいない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内部での高齢者虐待防止に関する研修はもとより、外部での研修にも参加し、理解を深めるよう努めている。また、高齢者虐待のニュース等があった際には回覧し、自施設でも振り返り注意喚起を行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度等、権利擁護に関する研修を通じて学ぶ機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居の際、必ず重要事項説明書をもとに十分な説明を行い、契約を行なっている。また、介護保険改定時等は、改定通知書を送り、同意を取っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>サービス担当者会議時に入居者、家族等が意見を述べ、サービスに反映できるような仕組みとなっている。</p>	<p>家族面会時に意見聴取のほか、独自の家族アンケート（年・1回）を実施。集約結果を事業所全員で討議し、管理者から家族に報告と同時に、事業所内にも掲示されている。利用者からの散歩やゲームなどの要望に即応するなど、各人の生活リズムに応じたケアに留意している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り時、毎月のフロア会議で、提案、意見を出し合い反映させている。	職員が職務に「責任と誇り」を持ち、共感と満足度を生み出すとの施設方針に従って、職員の意見を積極的に取り入れ具体化している。事例として、排せつ介助の改善、土と花に触れることによる癒しを生み出す「園芸療法」、効果的な外出「リクエスト外出」などが例示される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度を導入し、また日頃から職員の悩み、要望等を聞き、職場環境の調整をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内部研修計画において段階に応じた研修を開催できるようになっている。また、施設外研修においても職員のレベルに応じて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	法人内の各事業所と研修会等を通じて勉強会、ネットワーク作りを行っている。法人外とは、他施設のグループホーム管理者と知り合いになれ始め、ネットワーク作りを行っている最中である。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居間もない時には既入所者との関係構築のため、席の配置、共同での作業、一人の時間の配慮をし、職員が間に入りスムーズに馴染んでいただけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時に家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居時に家族、本人から要望を聞き、また主治医からの意見書等からサービス計画に反映させ対応している。初回時の計画は、通常よりも期間短縮を行い、細かな調整を図れるようにしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常的な家事等を一緒に行い、お互いに感謝の気持ちを伝え合い、入居者にとって家族のように何でも言える関係を築くよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>家族と緊密に連携し、家族と共に本人を支えていくよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>いつでも気軽に面会できる体制を整え、近所への散歩、地域行事への参加等、外出の機会を設けている。また、本人の望む物を家族へ連絡し、買い物へ出かける等、外部との接触を積極的に行っている。</p>	<p>職員が付き添って、行きつけの美容室、日用品の買い物に近隣のお店に出かけるなど、外部との接触を大切にしている。元・洋裁教室の教師であった利用者のお弟子さんの来訪の事例、旧知の来訪者も多く、馴染の関係を継続させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者一人一人の個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒にしていただけることはしていただき、レク、行事への参加で関わりが円滑にすすむように図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了となった場合でも、その後の様子を確認したり、時には訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向、希望を介護サービス計画に反映し、日々のケアに取り入れている。また、今年度からは「リクエスト外出」と称した個々の希望に沿った外出支援を行っている。	今年度は、一人ひとりの思いや暮らしの希望を反映する目的として、職員の発案による「リクエスト外出」と称した、個別対応の事例が強調される。各人の希望による銭湯、回転ずし、動物園など、多様な外出支援を行うなど、本人本位の意向に留意したケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴を家族、本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人一人に合った、1日の過ごし方が出来るよう本人の思いを汲み取り、日々の介護に反映している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向、要望を聞き取り、また専ら担当職員、必要に応じて医療機関、専門職の意見も取り入れ、モニタリングし介護サービス計画に反映させている。</p>	<p>本人や家族の意向を反映した介護計画の作成のほか、モニタリング会議を開催し、ケアプランの定期的な見直しと現状とのすり合わせを行い、実際の介護に反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個々に介護経過を記録し、日々の変化、気づきを職員間で共有する事で、より良い介護ができるよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人一人の要望を日々の外出、行事、入浴等に取り入れ、ルーチンワークにならないよう実践に努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、スーパーへの買い物等地域資源を活用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>施設協力医、それぞれの主治医との連携を図り、健康管理をしている。また必要、要望があれば主治医以外の受診も随時対応している。</p>	<p>施設協力医のほか、各利用者のかかりつけ医の選定は、本人および家族の要望に柔軟に対応し、事業所の職員が付き添って受診している。本人および家族の要望に応じた適切な医療が受診されるよう、運営母体法人と連携して、その体制を確保している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員と介護職員間の連携、法人内他事業所看護職員、医療機関との連携を図り利用者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際には、定期的に様子を伺いに医療機関に訪問し、情報収集している。また早期に退院できるよう、病院関係者と管理者間で情報交換している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合、速やかに家族、医療機関と連携し、今後の方針について話し合いをもつようにしている。また、入居時点で、重度化した場合の対応について、文書にて確認している。</p>	<p>重度化した場合、家族および地域医療機関との連携のほか、法人組織としての、終末期に向けた総合的な対応を可能としている。入居時点で重度化した場合の対応については文書で説明し、関係者の同意を得ている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時の対応については、適宜研修を受け、統一した対応ができるよう備えている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>施設内での火災避難訓練を、定期的に実施している。また、非常時に備え食料の備蓄も行っている。</p>	<p>年2回、夜間と昼間想定の訓練を行い、必要に応じて地区消防署と連携し指導を受けている。事業所内に食糧備蓄のほか、レスキューボード・AEDの設置もある。先の「8・20土砂災害」の際には、近隣の罹災者に風呂を提供するなど、地域との協力体制を維持している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人のプライバシーに配慮しながら、尊厳が保持できるよう対応している。また日々の業務の中で職員同士で注意しあい、接遇技術の向上に努めている。	プライバシー確保のため、各居室の開き戸の前に暖簾を下げ、ドアの上部に安全確認と、デザイン性を兼ねた小さな丸い窓の設置に職員の工夫が見られる。また、トイレ誘導の際の声かけにも、利用者の尊厳とプライバシーを損なわないよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現できるよう、利用者一人一人に合わせた声掛けを行い、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。可能な方は、一緒に服を買いに出かけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けを工夫したり、メニューの説明等し、食事に彩りを添えられるようにしている。また出来る方には片付けなどしていただいている。	職員の効率的な働きを目的に、朝食と夕食は、調理を近隣の専門業者に依頼し、職員は配膳に従事している。昼食は法人本部から供給を受け、同様に配膳している。食材やメニューも多彩で、利用者の好みをうまく取り入れた調理がされている。食事の後片付けは、利用者と職員が一緒に行い家庭生活の一端を体感させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>各利用者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし，毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後，全員口腔ケアを実施している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中は全員トイレ誘導を行い，一人一人の排泄パターンに合わせて誘導している。また夜間も，出来る限りパターンに合わせて誘導し，トイレでの排泄を促している。</p>	<p>事業所全体でオムツゼロ運動に取り組んでいて，適切なトイレ誘導や排泄パターンの把握により，リハビリパンツやパットの併用，可能な方には布パンツの継続など，排泄の自立に向けた支援がなされている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>できるだけ下剤に頼らず，起床時の冷水，水分摂取の促し，便秘体操等で腸動を促すことによる排泄に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間，曜日などはできるだけ希望に沿えるようにしている。また季節によっては菖蒲湯やゆず湯へ入湯して頂いている。</p>	<p>入浴は，週3回を基本とし，希望があれば，時間を問わず対応可能としている。季節によっては，菖蒲湯やゆず湯にするなど，快適な入浴環境の整備に工夫が見られる。その対応により，現在では入浴拒否の利用者はいない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人一人の習慣に合わせて、就寝時間、起床時間は自由にしていただいている。夜間は1時間に1回見回りをするが、起こさないよう配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>主治医から処方があった段階で、看護職員、介護職員共に確認、理解している。小さな状態変化についても、看護職員、管理者に報告し対応している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人一人の生活歴、好きなことに合わせたレク、作業、活動を提供している。また一人になる時間も大切にしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日頃から近隣へ散歩する等の外出をしている。希望があれば、外出レク時に希望が反映できるよう努めている。</p>	<p>今年度の重点目標である「リクエスト外出」のほか、日頃の近隣の散歩で、お宮参りや稲作の成育の観察など、自然環境に馴染んだ外出支援に留意している。家族の面会時には、家族と共に喫茶店や墓参りに出かけるなど、日常的な外出が行われている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>要望に応じて金庫から出金し、買い物と一緒に行く等している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望に応じて電話、手紙等の連絡を支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有フロアは常に清潔に保つようにし、落ち着いた雰囲気になるよう努めている。また季節の飾りや、製作物を飾り、季節感、生活感が感じられる様にしている。共有空間では見当識に配慮した空間作りを意識している。</p>	<p>共有空間のロビーやエレベーターホールには、季節ごとに利用者と職員の共同制作による貼り絵等の作品が展示されている。自然採光も良く、窓外に四季折々に変化する田園風景が眺望できる。各階の廊下には「捕虫器蛍光灯」が点灯され、居室への害虫の侵入を防いでいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人一人の性格、関係性に合わせて、席の配置をし、またその時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなるよう工夫している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入所時に、できるだけ今まで使用していた物を持ってきていただき、配置も本人に聞きながら、また状態に合わせて使いやすいようにしている。（茶碗、コップ、箸、家具等）</p>	<p>18人の各居室に、ホームの名前にも由来する、モモ・リンゴ・オレンジ…などの、果物の輝きを模した名前をつけ、個別化を図っている。タンスや仏壇、化粧品を持ち込みなど、各利用者の生活歴に即した調度品に囲まれ、居心地の良い居室整備に工夫を凝らしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>屋内はバリアフリーにし、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っていたいっている。また自立を促すため、車椅子の方にも自操を促し、イスへの座りかえを推奨している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム (山まゆ) フルーツハウス

作成日 平成27年9月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	フルーツハウスという施設は地域へ周知され理解されているが、取り組み内容まで十分に地域発信できていない。	運営推進会議も含め、もっと取り組み内容やケア内容について広める。	地域交流行事がある際に、口頭で取り組み内容を伝える他、広報紙の配布も併せて行っていく。	6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。